

義本王ぬ話

義本王ぬ話さびら。今から約

八百年んかい近さる昔ぬ話

やいびーしが、浦添ぬ都なかい

義本王でる 王様ぬめんしえーた

んでる話聞ちやびたん。くぬ義本

王や、一杯不徳な人物成やーに、

うぬつ人が世やる間、御主ぬ食

報ぬ無ーんねーせん傾ちゆんち、

胸ふじやみつしめんしえーたんでる

話やいびーん。やで、七月雨ぬ降

らん干上で、また七月雨降で、焚物

ん無ーらん、死人ぬ沖繩なかい多

く出じやーに、くぬ年ーまた疫病

ぬぬーやーに、諸ほとんどなー、銭ー

あへん買で食むる物ん無ーらん、品

果へん無ーびらんだん。する場に、

丁度むるち小堀なかい、毎年、八

岐ぬ大蛇とーいぬ物、むるちぬ小堀

からまぎはぶぬ出じて、はぶで言し中

ねー、鰻やいびーんやー、大蛇どや

いびーくと。うりが出じて、うりんか

いうかたびうさぎらんになる餓死んす

る、また、徳化ん無ーんるでち、う城

をで吟味しえーる如ーいびーん。さ

れー一杯親孝行ぬ者ぬ、我ーが親

ぬみじわいに、親助きーんで、大蛇ぬ

餌食成で、親やまたとー拜まらん、

我んねー親救ゆる為ねー公儀なか

い、くん如ーる哀りつし貧相者成

で、親なかい生さったくとる居る、国

ぬ助き、また、親ぬ助きすんで言ち、

一杯孝行娘ぬ、昔、城間村

から、うぬ娘や出じとーいびーん。

名<sup>な</sup>る「ちるー」ん<sup>ん</sup>で言<sup>い</sup>ちよーいびーし

が、あんさーにうぬ娘<sup>むすめ</sup>ー、なー影<sup>かげ</sup>

姿<sup>しがた</sup>んじこー立<sup>りっぱ</sup>派<sup>むすめ</sup>ぬ娘<sup>うやこーこー</sup>、親<sup>つやこーこー</sup>孝<sup>うやこーこー</sup>行<sup>うやこーこー</sup>ぬ

娘<sup>むすめな</sup>成<sup>むすめな</sup>やーに、うぬ大<sup>おろちたいじ</sup>蛇<sup>おろちたいじ</sup>退<sup>おろちたいじ</sup>治<sup>おろちたいじ</sup>んかい

率<sup>そつせん</sup>先<sup>くーじ</sup>し、公<sup>くーじ</sup>儀<sup>いひ</sup>から選<sup>いひ</sup>ばりやーに、う

ぬ娘<sup>むすめ</sup>さぬんかい決<sup>けってーな</sup>定<sup>な</sup>成<sup>な</sup>たくと、

男<sup>おまが</sup>ぬ親<sup>つや</sup>や、なー銭<sup>じめ</sup>んう賜<sup>たび</sup>みしえー

る筈<sup>はず</sup>ぢち、一<sup>いっぺーゆるく</sup>杯<sup>ぬじゆ</sup>喜<sup>おろち</sup>ぢ、望<sup>おろち</sup>ぢ大<sup>おろち</sup>蛇<sup>おろち</sup>

ぬ餌<sup>えじき</sup>食<sup>えじき</sup>んかい成<sup>な</sup>やーに、そーいびーし

が、くりん神<sup>かみさま</sup>様<sup>とつち</sup>ぬ徳<sup>とつち</sup>化<sup>ぎー</sup>に應<sup>ぎー</sup>じてい

ちぬいつかや、やーうかたびとつし、

むるち小<sup>くむい</sup>堀<sup>そー</sup>んかい添<sup>そー</sup>て行<sup>おろち</sup>じ、大<sup>おろち</sup>蛇<sup>おろち</sup>ぬ

餌<sup>えじきな</sup>食<sup>えじきな</sup>為<sup>えじきな</sup>すんどーんちさく<sup>ゆるく</sup>と、喜<sup>ゆるく</sup>ぢう

ぬ女<sup>あな</sup>童<sup>なくわらへ</sup>ー行<sup>ん</sup>じやーにさく<sup>ん</sup>と、なー

火<sup>し</sup>吐<sup>あみかじ</sup>ちやーち直<sup>し</sup>ぐ大<sup>おろちえ</sup>蛇<sup>ん</sup>ー出<sup>ん</sup>じて来<sup>ち</sup>

ゆーしが、只<sup>ただ</sup>今<sup>いま</sup>なかい台<sup>てーふー</sup>風<sup>ふう</sup>ぬ如<sup>ごと</sup>つ

し直<sup>し</sup>ぐ雨<sup>あみかじ</sup>風<sup>あみかじ</sup>やまちりてそーる場<sup>ば</sup>ね

ー、天<sup>てん</sup>ぬ神<sup>かみさま</sup>様<sup>たし</sup>ぬ助<sup>たし</sup>きやーに、うぬ

童<sup>わらび</sup>ん命<sup>めちく</sup>乞<sup>めちく</sup>ーて、むるち小<sup>くむい</sup>堀<sup>くむい</sup>なかい

害<sup>がいな</sup>成<sup>おろち</sup>いるくぬ大<sup>おろち</sup>蛇<sup>かみさま</sup>、神<sup>かみさま</sup>様<sup>むるたいじ</sup>ぬ諸<sup>むるたいじ</sup>退<sup>むるたいじ</sup>治<sup>むるたいじ</sup>

さん<sup>はなし</sup>でるう話<sup>はなし</sup>やいびーしが、あんさ

ーに、くぬ義<sup>ぎほんをー</sup>本<sup>うすー</sup>王<sup>うすー</sup>や御<sup>うすー</sup>主<sup>うすー</sup>ぬ徳<sup>うすー</sup>化<sup>うすー</sup>ぬ無<sup>うすー</sup>

ーんで、世<sup>ゆ</sup>の中<sup>なか</sup>や干<sup>ひやーい</sup>上<sup>ひやーい</sup>いぬ生<sup>そー</sup>じ

ーん<sup>いっぺーどーいた</sup>で言<sup>いっぺーどーいた</sup>ーに、一<sup>いっぺーどーいた</sup>杯<sup>いっぺーどーいた</sup>胸<sup>いっぺーどーいた</sup>痛<sup>いっぺーどーいた</sup>みしみそー

やーに、なー我<sup>わ</sup>ーがー国<sup>くに</sup>ぬ舵<sup>かじと</sup>取<sup>かじと</sup>いる

王<sup>をーさま</sup>様<sup>な</sup>や成<sup>な</sup>らんくと、我<sup>わ</sup>んねーなー

隠<sup>いんちゆ</sup>居<sup>いんちゆ</sup>つし、かーま国<sup>くんじやんやま</sup>頭<sup>くんじやんやま</sup>山<sup>くんじやんやま</sup>んかい

隠<sup>いんちゆ</sup>居<sup>いんちゆ</sup>つし行<sup>いんちゆ</sup>ちゆくと、我<sup>わ</sup>ん後<sup>あひち</sup>継<sup>あひち</sup>じえ

一<sup>いっぺーそーぶー</sup>杯<sup>いっぺーそーぶー</sup>食<sup>いっぺーそーぶー</sup>報<sup>いっぺーそーぶー</sup>ぬある伊<sup>いーじゆくしく</sup>祖<sup>いーじゆくしく</sup>城<sup>いーじゆくしく</sup>をて

生<sup>ん</sup>まりたる、「えそのいくさもり」ん

ち、くれー英<sup>いーじゆをーな</sup>祖<sup>いーじゆをーな</sup>王<sup>いーじゆをーな</sup>成<sup>いーじゆをーな</sup>とーいびーしが、

あんさーに英<sup>いーじゆをー</sup>祖<sup>いーじゆをー</sup>王<sup>いーじゆをー</sup>や世<sup>しきんうまんちゆ</sup>間<sup>しきんうまんちゆ</sup>御<sup>しきんうまんちゆ</sup>万<sup>しきんうまんちゆ</sup>人<sup>しきんうまんちゆ</sup>

さーに、王<sup>をーさませんはつ</sup>様<sup>をーさませんはつ</sup>選<sup>をーさませんはつ</sup>抜<sup>をーさませんはつ</sup>さつたくと、くぬ

英<sup>いーじゆをー</sup>祖<sup>いっぺーぶつち</sup>王<sup>いっぺーぶつち</sup>や一<sup>いっぺーぶつち</sup>杯<sup>いっぺーぶつち</sup>徳<sup>いっぺーぶつち</sup>化<sup>いっぺーぶつち</sup>ぬ満<sup>まん</sup>で、ダイヤ

モンド抱ちよーる子ぬ出じやーに、く

ぬっ人がごん沖繩ぬ王様成いねー、

世ぬ中や栄ゆん、また、裕福ぬ生活

する沖繩や出じーくごどち選抜さ

つて、義本王ぬ後継じや、世間御万

人なかい崇みらつたる浦添伊祖

から出じたる英祖王やんぬ話

やいびーん。くれー古老ぬ話やいび

ーしが、また義本王や、国頭山ん

かい行じ、うりから用心みそーちや

る墓や三ちあんでぬ伝説ぬあいび

ーん。くれーーちえー、辺戸ぬ岬ぬ

山なかいあんでる話、また、な

ーちえー、国頭 ひちりご山なか

いあんでちぬ話やいびーしが、また、

なーーちえー、三ちやんぬ言ーねー、

中城 仲順 なかいん墓ぬあ

でる伝説話ぬあいびーん。くりん

昔ぬ古老ぬ話やいびーしが、何

でちくぬ王様や二ちん三ちん墓ぬ

あがやーんでち、くり一杯不思議に

話さびたくど、大昔や王様成

いるっ人ー、墓や一ち作いねー、

盗人ぬ墓開きて、宝物けー取いん

でち、二ちん三ちん作たんぬ伝

説話んあいびーしが、今、県ぬ文

化財どっし、義本王ぬうしじりみつ

し、洗骨崇みとーるう墓や、くぬ三

ちが内なかいーちえーあんでる話

やいびーしが、文化財をどん、

研究中でち、話ぬあいびーしが、

くれー我んねー、昔、小湾ぬ字ぬ、

学問んつぬまんぐらやしえーめんそ

ーらん年寄ぬ達から、伝説話聞

ち今付きなまちい覚つひとーいびーん。

場所不明。  
現在の北中城村仲順。  
浦添市にある。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・  
この話は、Bさんが沖縄語の研究に役立つ  
ばと、ご自身の音声を提供して下さった  
ものを、文字に直して整理したものです。  
日本語の混ざったところがあります。元が  
音声のため、文章は必ずしも整っていませ  
ん。いくつか注で補いました。録音の時期  
は一九九一年です。

#### 参考

屋良むるちと大蛇の話は、玉城朝薫の組  
踊「孝行之巻」の筋になっている。

義本王の墓は、史実かどうかは別として、  
複数あるとされている。文献には現在の北  
中城村仲順、国頭村辺戸、伊地、佐手、辺  
土名の名が見られる。

#### 注

「義本」は場所によって「じぶん」、「ぎ  
ぶん」と呼ばれる。

沖縄語教育支援文庫

日本語のまま使われた言葉が幾つかある。  
例えば「王様、人物、疫病、ほとんど、八  
岐の大蛇、餌食、娘、退治、率先、決定、  
神様、害、痛み、選抜、生活、古老、伝説、  
文化財、洗骨、研究中」。

義本王（一二〇六年〜？）在位は一二四  
九〜五九年。

「むる」は「んでる」に同じ。文中に幾  
つもある。

「無ーびらん」は「無ーやびらん」に同  
じ。

「むるち」は池の名（漏池）。嘉手納町  
屋良にある。

「うかたび」は「うたかび」のことが。  
祈禱を伴う。この場合は若い女の生鬘。

浦添市にある。

「山」は高地ではなく、木々の茂ったと  
ころをいう。